

## ●ブックトークシナリオ

【テーマ】 ゴミと地球と君たちの未来 ～環境問題を考えるヒントになる本～

【対象】 小学校3・4年生

【所要時間】 23分

### シナリオの記載方法について

- ・動作は□で囲ってあります。
- ・表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違う場合は、確認してください。
- ・本を朗読する部分は、【 】で囲った太字になっています。
- ・本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

### 【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	いろのかけらのしま	イ・ミョンエ/作・絵 生田美保/訳	ポプラ社	2017
2	あきらめないこと、それが冒険だ	野口健/著	学研	2006
3	食品ロスの大研究	井出留美/監修	PHP 研究所	2019
4	わたしたちの家が火事です	シャネット・ウィンター/ 文・絵 福本友美子/訳	鈴木出版	2020
5	ぼくらのムササビ大作戦	深山さくら/作 松成真理子/絵	国土社	2011

### 【シナリオ】

#### ●導入

今日は授業で勉強するゴミ問題をメインに、地球の環境問題について考えるヒントになる本を集めました。

#### 1 『いろのかけらのしま』

皆さんはコンビニエンスストアやスーパーで買い物をする時、マイバックを持っていますか？それともプラスチックの袋を買いますか？無料でもらうことができたプラスチックの袋が有料、つまりお金を出して買う、となったのは最近のことです。プラスチックゴミが世界中で大問題になったからです。なぜ問題になるのでしょうか？

##### 表紙を見せる

この絵本にヒントがあります。

##### 最初から最後まで読み聞かせ

##### 表紙を見せる

この海のプラスチックゴミ。皆さんが住んでいる山梨県にも関係します。山梨でポイ捨てされたゴミは川に入ると静岡県まで流れ、最後に海に入ってしまうのです。

#### 2 『あきらめないこと、それが冒険だ』

##### 表紙を見せ、野口さんの顔写真を指さす

山梨でポイ捨てされたゴミといえば、富士山です。富士山には山に登る人が捨てたゴミがたくさんあります。そのゴミを拾ってきれいに片付けよう！と呼びかけたのが野口健さんです。野口さんが書いた本『あきらめないこと、それが冒険だ』からその活動を紹介します。

口絵（本の最初の写真のページ）の写真「世界一の山エベレストにも登頂成功！」を見せ、指さす

野口さんは冒険家です。世界一高い山、エベレストに登ろうとチャレンジしました。1回目、2回目は失敗。3回目にやっと頂上まで登ることができました。

#### **口絵の写真「ゴミ問題解決への挑戦エベレスト」を見せ、指さす**

エベレストにたくさんのゴミがあることに気づいたのは1回目のチャレンジの時です。ある日、登山隊の隊長がこう言いました。

**p.91 7行目を読む** 【「休みの日にベースキャンプのまわりのゴミを拾おうじゃないか！」】

**p.92 6行目～p.93 4行目を読む**

そこで野口さんはゴミを拾い始めました。【いざ拾ってみると、あるわあるわ、ゴミの多さにおどろいた。(中略)「待ってくれ!富士山はきれいだよ?」すると、彼はにやりと笑って自信たっぷりに答えた。「いや、きたない!ゴミの山だ!」】

エベレストだけでなく富士山もゴミが多いことや、日本人が捨てていることを教えられた野口さん。まずはエベレストのゴミを拾い始め、4年間続けました。

#### **口絵の写真「富士山でも」を見せ、指さす**

その後、富士山や富士山の麓にある青木ヶ原樹海で、ボランティアの人とゴミを拾い片付けました。この写真のように大きなタイヤも、ビンも捨てられています。

皆さんは、野口さんがゴミを拾うと、富士山がきれいになると思いますか?それとも、拾っても拾っても誰かがゴミを捨てるので、富士山はいつまでも汚い山のままだと思いますか?

#### **子どもの発言(例「きれいになる」「汚い」)を聞く**

この本の続きには、ある日、野口さんとボランティアの人たちがゴミを拾いに行くと、ゴミがほとんどなくて驚いたことが書いてあります。アレと思った野口さんが調べると、山に登る人たちがゴミを拾ってきれいにしていました。

#### **表紙を見せる**

この本にはゴミの話以外に、野口さんが皆さんと同じ年齢の時は勉強が嫌いだったこと、お父さんとお母さんが離婚してしまい夜はひとりぼっちで寂しかったこと、中学・高校の時に始めた山登りのハラハラドキドキする冒険のことも書かれていますので、ぜひ読んでみてください。

### **3『食品ロスの大研究』**

**皆さんは、ご飯の時に嫌いな食べ物が出されたらどうしますか?我慢して食べますか?それとも食べ残しますか?**

#### **表紙を見せる**

食べ物のゴミ問題について書かれた『食品ロスの大研究』を紹介します。

**p.8 捨てられた食べ物の写真を見せ、1行目～3行目を読む** 【まだ食べられるのに捨てられている食べ物を、「食品ロス」といいます。日本では、1年間に約643万トンも食品ロスが出ています。その中には、みなさんが家や給食などで食べ残したのもふくまれています。】

ゴミとして捨てられる食べ物は、計算すると日本国民1人あたり、毎日茶わん1杯分。その半分は家庭から捨てられたものです。

**p.13 クッキーの写真指差し、写真の説明文を読む**

家庭以外の場所での食品ロスは、まず食べ物を作る時に出来ます。例えば、これはクッキー工場です。

【製造中に割れたり、大きさが合わなかったりしたもの、機械に残ったものなどが食品ロスになる。】と書いてあります。

**p.12 ダイコンの写真指差し、写真の説明文を読む**

これは出荷できずに捨てられたダイコンです。【三つまたのダイコン おかしな形のダイコンや(中略)市場で売るのが難しい。】と書いてあります。

**p.15 恵方巻の写真指差し**

食べ物を売るスーパーやコンビニエンスストアでは消費期限(安全に食べられる期限)や賞味期限(おいしく食べられる期限)が切れたものが食品ロスになります。これは、2月の節分の時に縁起物として食べる恵方巻。写真の左側は売れ残り捨てられた恵方巻です。

**p.16 回転ずしの写真指差し、写真の説明文を読む**

レストランなど飲食店ではお客の食べ残しの他に、消費期限切れや作りすぎのものが捨てられます。これは回転ずしです。【回り続けたずしは、一定の時間がたつと捨てられる。】と書いてあります。

#### **p.24 りんごの写真を指差す**

では、食品ロスを減らすにはどうしたらよいでしょう？ヒントが書いてあります。農家では、捨てていたリンゴの実を使い、ジュースやクッキーを作りました。

#### **p.28 を見せる**

スーパーやメーカーなどは話し合っ取引ルールを見直し、食品ロスを減らしました。

#### **表紙を見せる**

さあ、皆さんの家や学校ではどんなことができるでしょうか？この本で調べてみましょう。

### 4 『わたしたちの家が火事です』

地球の未来のために何ができるかな？と真剣に考え、「学校ストライキ」を始めた女の子がいます。

#### **表紙を見せ、グretaさんのイラストを指さす**

スウェーデンに住む15歳の少女グretaさんです。グretaさんは

**見返し（本の表紙カバーの折り返し部分。）の言葉を読む** 【世界じゅうの気候がおかしい。地球の温度が上がっている。手おくれにならないうちになんとかしなくては！】と考え、学校を休んで地球が危ないことを訴えるストライキを始めました。始めた時のことが書かれているページを読みます。

**先生が授業で環境の話をする場面のページから、火事を背景にグretaさんの顔がズームアップされているページまで、読み聞かせ** 【ある日、先生が授業で環境の話をしました。（中略）わたしたちの家が火事です】

グretaさんは考え続けたあげく、学校ストライキを始めました。

**ストライキを計画する場面のページから、世界中の子どもたちがストライキを始めた場面のページまで、読み聞かせ** 【グretaは、学校に行かないでストライキをすることにしました。（中略）おとなたちが地球を救おうとしないのなら、子どもたちがやるのです。】

世界中の子どもたちが金曜日に学校を休んでストライキをしたり、デモ行進をしました。いったいどんなことを訴えているかという

**大勢の子どもたちがポスターを掲げた場面のページを見せ、ポスターに書かれた言葉を数点読む** 【地中の石油はつかわないで】 【子どもにきれいな空気を】 【わたしたちの未来をこわさないで】

#### **表紙を見せる**

グretaさんが考えたことや学校ストライキのこと、世界中の子どもたちが訴えたことが書いてあるこの本を、後でもう一度ゆっくり読んでみてください。

### 5 『ぼくらのムササビ大作戦』

#### **表紙を見せ、男の子たちのイラストを指さす**

グretaさんは地球を救いたいと声を上げましたが、この本『ぼくらのムササビ大作戦』では小学校4年生の男の子たち、友樹と仲良しの達也がムササビを守るためにある作戦を始めました。ムササビは生き物です。山梨県にも住んでいます。

#### **p.8 10行目～p.10 7行目を読む**

最初にムササビを見たのは友樹です。友樹はその時のことを達也にこう話しました。【「ぼくね、ムササビを見たんだよ。あの木のてっぺんからとんだんだ」（中略）図書室になら、写真とか本があるかもしれない。】 こう考えた二人が学校の図書室で調べると、こんなことがわかりました。

**p.15のイラストを見せながら、p.14 1行目～9行目を読む** 【「ムササビ…リスのなかまの夜行性動物です。（中略）鳥のように羽ばたいてとぶわけではないってさ】

本物のムササビが見たくなった二人は大イチョウの木で待ち伏せしました。すると親子のムササビが木の幹を登って、木から木へふわっと飛び移ったり、さっと飛んでいくところを見ることができました。

#### **p.46 8行目～p.47 6行目を読む**

ところがある日、達也がムササビが危ないというのです。友樹が達也の描いた町の絵を見た場面を読みます。【大イチョウと書いたひときわ大きな木に、×印がついていた。（中略）「緑の道」がムササビロードだ！】

## **表紙を見せる**

二人は切られてしまう大イチョウの木が、ムササビが飛ぶ時に使う大事な木だと気づきました。そこでムササビを助けるために木を「切らないで！」と訴える作戦を始めました。例えば、町で一番偉い町長さんをお願いに行きました。クラスみんなに呼びかけ、ポスターを作って貼りました。それから大イチョウの木の下を通りかかった町の人に、ムササビが住んでいることを説明しました。さて、この作戦はうまくいくでしょうか？続きを読んでみてください。

## ●まとめ

### **紹介した本の表紙を順に見せ、本の書名を言う**

さて、いろいろな環境問題の本が登場しました。最初は海に流れ出たプラスチックゴミの話『いろのかげらのしま』、次に冒険家、野口健さんがエベレストや富士山のゴミを拾い片付けた話『あきらめないこと、それが冒険だ』、まだ食べられるのに捨てられている食べ物の話『食品ロスの大研究』、地球を救う活動を始めた勇敢な少女グレタさんの話『わたしたちの家が火事です』、最後にムササビを助ける作戦を始めた友樹と達也の物語『ぼくらのムササビ大作戦』です。今日紹介した本は、全部図書館にありますので、ぜひ読んでください。

**【その他の本】** こちらの本もおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

### ○プラスチックゴミのことがわかる本

- ・『地球が危ない!プラスチックごみ』 全3巻 幸運社/編 汐文社 2019~2020年
- ・『ポリぶくろ、1まい、すてた』 ミランダ・ポール/文 エリザベス・ズーノン/絵 藤田千枝/訳 さ・え・ら書房 2019年
- ・『よごされた地球★たのしく学ぶ、これからの環境問題 2 プラスチックで大パニック』 ロビン・ツイッディ/著 小島亜佳莉/訳 創元社 2019年
- ・『ミッション・ウミガメ・レスキュー』 カレン・ロマン・ヤング/著 田中直樹/日本版企画監修 松沢慶将/監修 ハーパーコリンズ・ジャパン 2019年

### ○プラスチック以外のゴミのことがわかる本（食品ロスを含む）

- ・『目で見えるSDGs時代の環境問題』 シェス・フレンチ/著 大塚道子/訳 さ・え・ら書房 2020年
- ・『ごみから考えるSDGs』 織朱實/監修 PHP 研究所 2020年
- ・『SDGsぬまっち式アクション100』 全3巻 沼田晶弘/監修 鈴木出版 2019年
- ・『ゴミにすむ魚たち』 大塚幸彦/文・写真 講談社 2011年
- ・『ごみはどこへ ごみのしよりと利用』全3巻 高月紘/監修 WILL こども知育研究所/編・著 金の星社 2019年
- ・『ごみゼロ大作戦!』 全6巻 浅利美鈴/監修 ポプラ社 2017年
- ・『エコでござる-江戸に学ぶ』 全3巻 石川英輔/監修 鈴木出版 2009年
- ・『浄水場・清掃工場を知ろう 2 清掃工場』 あかね書房 2019年
- ・『まちのしごとば大研究 4 清掃工場・リサイクル施設』 まちのしごとば取材班/編 岩崎書店 2016年

### ○グレタさんのことがわかる本、地球温暖化に関する本

- ・『グレタ・トゥーンベリ』 ヴィヴィアナ・マッツァ/著 赤塚きょう子/訳 金の星社 2020年
- ・『やさしく解説地球温暖化』 全3巻 保坂直紀/著 こどもくらぶ/編 岩崎書店 2017~2018年
- ・『はらぺこゾウのうんち』 藤原幸一/写真・文 偕成社 2018年
- ・『ねこさんかぞくのみどりのカーテン』 津田直美/作 ブロンズ新社 2009年

### ○その他の環境問題の本

- ・『ワンガリ・マータイさんとケニアの木々』 ドナ・ジョー・ナポリ/作

- カディール・ネルソン／絵 千葉茂樹／訳 鈴木出版 2011年
- ・『山に木を植えました』 スギヤマカナヨ／作 講談社 2008年
  - ・『国谷裕子とチャレンジ!未来のためのSDGs 3 「地球」に関するゴール』 国谷裕子／監修 文溪堂 2019年
  - ・『ソウがとおる村』 ニコラ・デイビス／文 アナベル・ライト／画 もりうちすみこ／訳 さ・え・ら書房 2014年
  - ・『みどりの町をつくろう』 アラン・ドラモンド／さく まつむらゆりこ／やく 福音館書店 2017年
  - ・『スラムにひびくバイオリン』 スーザン・フッド／作 サリー・ワーン・コンポート／絵 中家多恵子／訳 汐文社 2017年
  - ・『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』 ムヒカ／述 くさばよしみ／編 中川学／絵 汐文社 2014年
  - ・『みどりのゆび』 モーリス・ドリュオン／作 安東次男／訳 岩波書店 2002年

山梨県立図書館 2020.6